

# インド生活あれこれ

ニューデリー日本人学校 高橋雅彦



## 1 発展するインド経済

BRICSの一角を占めるインド。国土面積は世界7位、日本の人口の10倍以上、約13億の人口を有します。その首都がニューデリー<sup>※</sup>で、約1300万人が住む巨大都市です。

生活していると、人口の多さだけでなく自動車やバイクの多さに驚かされます。SUZUKI, TOYOTA, HONDAといった日本の大手メーカーのものがとても多いことに気づきます。近年、自家用車の所有者がたいへん増えています。所有にあたっては駐車許可の取得が必要ないため、路上に駐車される自動車がたいへん多く、円滑な通行のさまたげとなっています。交通法規も厳密に守られているとはいえ、専用のドライバーを雇用する場合も少なくありません。

近距離の移動では、オートリキシャとよばれる小型オート三輪タクシーが市民の移動手段となっています。黄色と緑のカラーで、街中どこでも走っているので気軽に利用されています。また、現在6路線の地下鉄（デリー・メトロ）が運行し、慢性的な交通渋滞の解消に役だっています。この地下鉄の建設にあたっては日本の政府開発援助が大きな役割を

たしました。日本流の工事方法も導入され、その建設者精神が現地に与えた影響は小さくありませんでした。

これまで多くの日本企業がインドに進出し、市場の開拓に取り組んできました。インド全体では8000人以上の日本人在住者がいますが、その90%以上が日本企業のビジネスマンとその家族です。そのうちの約半数がニューデリーや近郊のハリヤーナ州のグルガオンに住んでいます。

## 2 ニューデリー日本人学校

本校は、世界で3番目に古い日本人学校です。1964年に誕生し、1991年に現在のバサント・クンジ地区へ移転しました。約270人の児童生徒と70人を超える幼稚園児（2015年11月現在）が在籍しています。昨年度50周年をむかえ、待望の新校舎が完成しました。1階を附属幼稚園、2階から4階の15教室を日本人学校が使用しています。

夏は40℃を優に超える高い気温のため、屋外での活動は思うようにできません。そのため、屋内プールを利用しての水泳授業が4～9月まで続きます。このプールは一般にも開放されており、週末には児童生徒だけでなく、その保護者やデリー日本人会の水泳同好会会員でにぎわいます。水泳授業の期間が長いこともあり、児童生徒は日本の同世代の子ども



写真1 市内を走るオートリキシャ

たちに比べるとかなり上達します。シーズンの終わりに行われる水泳記録会には大勢の保護者が参観に訪れ、声援を送ります。

### 3 インドの食生活

さまざまな宗教が混在するインドですが、国民の約80%はヒンドゥー教徒です。ヒンドゥー教では牛は神様が乗る神聖な動物と考えられており、信者は牛肉を食べることはありません。また、豚肉もほとんど食べません。もっぱら鶏肉です。肉類をいっさい食べない菜食主義者も多く、飲食店には「ベジタリアン」と「ノンベジタリアン」に分かれたメニューが並ぶことがあります。また、一目で食材がわかるように野菜のみ使用された食品には緑色の日の丸のようなマークが表示され、肉類や魚、卵などが食材に使用されているものには赤色の同じマークが表示されます。

ファストフードのハンバーガーショップはあっても、日本人がイメージする牛肉を使用したハンバーガーは販売されていません。コロッケや鶏肉のフライをはさんだようなものが出てきます。そして、ほとんどが辛みがきいたインド人好みの味つけになっています。辛いもの好きな方には一度ご賞味いただきたいと思います。

### 4 深刻な大気汚染問題

ニューデリーでは大気汚染が深刻になってきています。なかでも雨季が終わる10月ごろから翌年1月下旬ごろまでは、とくにひどくなります。11月上旬にくりひろげられるヒンドゥー教の祝祭「ディワリ」では、花火が大量に使用されるので、さらに汚染が進みます。実際、遠くの景色がかすんで見えなくなるのがわかるほどです。

日本人学校でも汚染度を示す数値を参考に屋外での活動の制限を行うことがあります。また、教室にはエアコンだけでなく空気清



浄機を稼働させています。フィルターのおかげぐあいからも、その深刻さがわかります。ようやく気温が下がり、屋外で運動するのに適した時期をむかえても、今度は大気の汚染が進み、思うように運動ができない状況となります。

### 5 インドの魅力とは

多くの世界遺産や多様な宗教が生み出す文化・風習など、インドのもつ魅力はつきません。毎年20万人もの日本人がインドを訪れています。自動車が行き交う道路を、野良犬に加えて野良牛がゆうゆうと歩いています。ラクダやゾウもときどき見かけます。郊外に出ると、道路は未舗装で凸凹があるのもあたりまえです。そうかと思うと近代的な高層ビルやマンションが建設されていたり、高級感がただようショッピングモールが各所につくられたりしています。近代的なものや歴史的なもの、きらびやかなものとそまつなもの、いかげんなものときちんと守られているもの、そういったものが混在していることが現在のインドの魅力の一つといえます。

残念ながら富める者と貧しい者の差は確かに感じます。そうしたものもふくめて、世界の中でインドはまだまだ成熟した大人の社会ではなく、力を秘めた若者のような存在なのだと思います。その中心が発展いちじるしい首都ニューデリーです。この国の20~30年後がどのようなになっているのかを予測することは簡単なことではありません。どのような発展をとげるのか、世界が注目しています。